

4歳児の子どもたちがタングラム遊びに挑戦した実践報告

境川保育園 4歳児担任保育士 伊藤 紗季

1. はじめに

境川保育園では月に一度全クラスの子どもたちが集まり、その月に誕生した子どもたちをお祝いする誕生会を開いている。毎月の誕生会には担当保育士がいて担当保育士は、子ども達に出し物（表現遊び）のプレゼントをしている。

誕生会の保育士の出し物（表現遊び）のねらいは、子どもたちの遊びや想像力や好奇心を刺激して、子どもたちが、保育士の出し物（表現遊び）を見た後に、模倣して遊んだり、担任以外の他クラスの保育士に関心を持ったり、親しみをもち関わろうとすることである。

パネルシアターや手品、クイズ等の出し物（表現遊び）がある中で、廃材の段ボールを丸や四角や三角等に切りその形を3人の先生で、組み合わせる事によって葉っぱやケーキ等のひとつの形を作るタングラムという出し物（表現遊び）があった。

初めてタングラムを見た4歳児の子ども達の目は輝いていて、「やってみたい」「おもしろそう」「やりたい」「すごい」等の声が聞こえてきた。

上下左右の組み合わせが大人でも難しい遊びが、4歳児の子どもたちに出来るのか、どのように進めていこうか不安であったが、ねらい通りに子どもたちが、肯定的な反応を示したので子どもたちの「やってみたい」を大切に取り組んできた遊びの実践報告をする。

2. 実践報告

10月30日

★保育士が用意した意図的環境

- マグネットボード 3台 縦85cm 横120cm
- 直径10cmの丸 黄赤青色各2枚のマグネット
- 1辺10cmの二等辺三角形 青赤各3枚 青赤各2枚のマグネット
- 縦10cm横15cmの直角三角形のマグネット
- 10cmの正方形赤白青黄色各4枚のマグネット
- 縦10cm横5cmの長方形 白赤各2枚のマグネット

○まず三角、四角、丸などシンプルな形のマグネットを使い楽しく遊ぶというねらい。

○何もイメージできないときは、保育士がヒントを出してあげる等して見守ることにする。

○4歳の子どもたちがどのくらいの枚数のマグネットを組み合わせる形を作ることが出来るのか遊びの中で観察をする。

遊びの様子

子ども達には何も説明せずにマグネットボード3台とマグネットを置いておくと、数人が興味を示し遊び始めた。

はじめは、同じ形を縦や横に並べて遊んでいたが、そのうちに四角と三角をくみ合わせて家や木を作り始めた。



(マグネットを使って遊んでいるところ)

友だちが作ったものを見て、刺激を受け、協力して作り始めて4枚を組み合わせた形が出来るようになった。

毎日この遊びを繰り返す姿があり自由なイメージで遊んでいくと7枚ぐらいを組み合わせたロケットができてきた。

11月6日

★保育士が用意した意図的環境

廃材のダンボールを切ったものミニタングラムを製作

- ①丸 2個 直径15cm
- ②半円 2個 直径15cm
- ③正三角形 2個 一辺15cm
- ④二等辺三角形 5個 一辺20cm
- ⑤正方形 4個 一辺15cm
- ⑥長方形 2個 縦15cm 横7.5cm

○バラバラのパーツから、子どもの自由な発想やアイデアに任せて遊ばせるのがねらい

○タングラム遊びに慣れる。

遊びの様子

「木を作ろう」との声に5人の子ども達が集まり作り始める。しかし、手で持って形を作ろうとした時にどうしても一つひとつの形が動いてしまう。「動くと作りにくいよ」「もっとしっかり持っていて」と声が出だし、「持っているよ」「動かしていないよ」とトラブルに発展していく。なかなか一つの形が完成できず、時間だけが経っていく。



(ミニサイズの段ボール)



(ミニ段ボールを使って合わせて遊ぶ)

組み合わせた形を創造しながら角度やピースの向きを変えたり友だちと一緒に試行錯誤する。「ここは三角だよ」「丸だよ」「四角じゃない」などと声に出して動く姿も出てきて、図形感覚が養われていくのがわかった。さらに、保育士の出したお手本がある場合は、完成形がはっきりしているため、簡単すぎず難しすぎずちょうどいい難易度であれば、みんなが集中して取り組むことができることも分かった。日々の姿から、集中力が高まり、みんなで完成を目指して取り組みやり抜く力も育てられていくのを感じた。

→この時点では、ちょうどいい難易度は5枚の組み合わせぐらいだと感じた。

11月14日

お楽しみ会（発表会）が近付き、日頃タングラムで遊んでいる姿をそのまま、保護者の方に見てもらおうのどうかと子ども達に提案してみた。

「やってみよう！」という子もいれば「上手く形が出来ないかもしれない」という子もいた。「上手く出来なくてもいいんだよ。失敗してもいいんだよ。みんなで一つの形を作っているところをみてもらおうよ」と保育士の声掛けで子どもたちがやる気になって挑戦することになった。

★保育士の用意した意図的環境

○家

45cmの正方形4個、縦45cm横65cmの直角三角形2個、縦45cm横25cmの長方形1個

○クリスマスツリー、プレゼント

70cmの二等辺三角形3個、縦45cm横25cmの長方形1個、45cmの正方形1個

○クリスマス靴下

45cmの正方形3個、縦45cm横25cmの長方形2個、直径45cmの半円1個

○星

45cmの二等辺三角形5個、45cmの五角形を半分にしたもの2個

○ロケット

45cmの正方形3個、縦40cm、横65cmの直角三角形2個、45cmの正三角形1個、45cmの円1個

○完成形のあるものを用意して、友だちと同じイメージで作り上げていく達成感と作り上げていく過程でのコミュニケーション力アップがねらい

- お楽しみ会（発表会）が12月ということでクリスマスのイメージで作れるものを子どもたちと保育士で考えた。
- 完成した形を見て子どもたちから「色を付けたらいいんじゃない」、「持ちにくいから持つところを作ろう」と子どもたちの声があり、子どもたちに色のついたお花紙を丸めて糊付けをしてもらった。持ち手は保育士で試行錯誤をして取り付けた。



（タングラム段ボールに花紙で色を付け）



（完成したタングラムを使って家を組み立て中）

遊びの様子

形が大きくなると一つひとつの形が重たくなり、さらに、友だちと重ねて形を作る時の、ずれる難しさが増した。

安定しない土台についつい不満の声が出てしまう。「もっとちゃんとしてよ」誰もが一生懸命だがなかなかうまくいかない。自分本位だとうまくいかない経験をしている子どもたち。何とかしようと考えている。活動や言い合いなどの葛藤を経験していくうちに、友だちの思いや考え方の違いや良さを分かり合えるようになってきた。クラスでもしっかりものの子どもが間違うとなかなか進まないが、葛藤してひっこめる姿も見られるようになった。

時間がかかっても許す限り待つようにした。形が完成すると喜びも大きくジャンプして喜びを表現する姿も見られるようになった。



（クリスマスツリーとプレゼント）



（クリスマス靴下の試行錯誤中）

最後まで難しかったのが、Xmasの靴下である。

もちろん、誰がどこのパーツを持つか決まっていないうえ、四角を持った人が前方で横に並んでいく。縦長の靴下だが始まりはいつも横長である。ここから子どもたち同士のやり取りが展開していく。最初はみんな我が物顔で誰が間違っているか見る事もない。ただ、完成したい形にはなっていないことに次第と気付いてくる。

「それここじゃない?」「ここであってるよ」「あっちだよ」など子ども達の声が飛び交っている。「自分が自分が」になっていた子ども達が、友だちの考えを聞いてこの声に少し耳を傾け始め、「もしかしたら自分が違うのかな?」と葛藤の中にも疑問に思った一人の子が動いてくれた。このことにより、靴下の完成への一歩となった。

タングラムは、一人では決してできない遊びである。友だちと一緒に作る楽しさや、難しさは大いにあるが、一つの形が完成したとき「すごい!」「ツリーに見えるよ」「ロケットだ!」と周囲の友だちの声を聞き、達成感に満ち溢れとても嬉しそうな子どもたちの姿であった。

→この時最大7枚の段ボールを組み合わせて作ることができるようになった。

12月21日

お楽しみ会（発表会）ではステージの上で7人の子どもたちがタングラムに取り組んだ。

普段はあまり時間がかからずに組み合わせて作ることが出来ていたクリスマスツリーが、なかなかできずに7人の子どもたちがタングラムを持ち、ステージの上で考えた。子ども達の「それちがうよ」「あってるよ」「Aくんがちがうよ」「Bちゃんがちがうよ」「まちがってないよ」等の声がすべて聞こえてくるので、会場は子ども達の姿と声に注目していた。会場の保護者の方からくすくすと笑い声も聞こえてきたり、温かい声援も聞こえてきたりであった。時間が長引いても会場にいるみんなが子ども達の様子を見守った。子どもたちは、しばらく考えたうえで1人の子が三角のタングラムを持ち動いてくれた。するとクリスマスのツリーがあれよあれよと完成した。そこからは、自信を持ったのか、残り難易度の高い7枚のロケットや星をやり取りしながらみんなで作り上げることができた。保護者の方たちからはたくさんの拍手をいただいた。子どもたちだけで考えて取り組んで完成した子どもたちの姿に私たちも感動をもらった。

次の日の保護者の方からの連絡帳には、子ども達が自分たちだけで考えている姿に成長を感じた、一生懸命な姿に感動した、友だちの声を聞いて動いた事により完成した姿にみんながほっと安心する姿、楽しんでタングラムをする姿が見られて嬉しかった、など様々な温かい言葉をいただいた。

3. おわりに

今回、タングラム遊びを友だちと広げていく中で、トラブルが無いように、なるべくスムーズに完成するようにと結果に注目してしまいがちだったが、子ども達がどのようなことを考えどのような思いで動き出そうとしているのか心の動きを見つめ、子ども達同士の言葉や表情から気付かされた事も多くあった。私も一緒に考えたり、作る過程を見守り、楽しみながら完成を待つようになった。やってみたいと思う気持ちを大切に、挑戦できる環境を用意して、失敗や葛藤を繰り返す中で、楽しく遊ぶためにはどうしたらいいかもわかるようになり、遊びのイメージを共有して遊ぶ事により、子ども同士の繋がりも深まっていくこともわかった。

行事のタイミングを見て、保育士の意図的で計画的な環境構成や配慮により、4歳児の子どもたちがみんなで挑戦していく気持ちを育てられた。

共通の目的を持ち、友だちと試行錯誤して実現に向かって考えていく姿から4歳児の協同性も感じた。

本年度は残り2ヶ月、継続して、協同性を促す援助に力を注ぎ、子どもたちの力を信じて、共に力を合わせて遊んだり、生活したり学びあったりできるように実践していきたい。



(7枚のパーツ難易度の高い星)



(左右三角の角度を間違うとなかなかできないロケット)